

草卷<sup>四</sup> 諸國名物にも載て、尾陽發句帳<sup>撰集の年月をまゐらす、上巻にも、</sup>

柳 南方のかせは鑷の柳がみ

何人

と詠り、<sup>略</sup> 南方は北につきての稱號かと思ひしに、此鍛に通稱次郎左衛門は世々中山と名のれるよし自いへり、此家の招牌極て古朴なるものなれば、先手習おきつるをこゝに縮寫す、文字は皆彫上たるものなり、<sup>略</sup> 圖

義教將軍の頃より有無は何ともいひがたけれど、いと古き名物なる事は論なし、今も他物は造らず、鑷のみ製して世を渡るは、めづらしき家なりといふべし、

〔嬉遊笑覽<sup>十二</sup>附錄〕一説に尾張國名古屋に南方といへる鍛冶あり、彼を南方といへるは、源敬卿、かれが作りし毛抜にて御髭をぬき給へば、よくぬけて少しも殘らず、南方不毛之地といふことあれば、常にかれを南方と仰られしより名となるなり、二説いづれが是なるを知らず、

鑷子雜載

〔雅筵醉狂集<sup>六</sup>雜〕題えらす

鑷是南方強

中庸云南方之強與、北方之強與、けぬきのつよきをいふ、